

ステージラボ茅野セッション 募集要領

ステージラボは、地域の文化・芸術に携わる公共ホール・劇場等並びに地方公共団体の職員の方々を対象とした研修プログラムです。少人数のゼミ形式によるセミナー、グループ討論、ワークショップなど双方向の研修で、地域における創造的な表現活動の環境づくりに取り組む人材の育成と、相互交流の促進を目指して実施します。

■ 開催概要

日 程：2025年7月1日（火）～7月4日（金）[4日間]

会 場：茅野市民館・茅野市美術館（長野県茅野市塚原 1-1-1）

開講コース：①ホール入門コース、②自主事業コース

定 員：各コース 20名程度

参 加 費：研修参加は無料 ※交通、宿泊、滞在中の食事はご自身で手配、費用負担いただきます。

開催体制：主催／（一財）地域創造 提携／茅野市民館指定管理者（株）地域文化創造

共催／茅野市 後援／長野県

①ホール入門コース

コーディネーター：野村政之（信州アーツカウンシル ゼネラルコーディネーター）

今回の会場である茅野市民館のスタッフ、活動に携わる地域住民の皆さんにお話を聞きながら、開館から20年にわたり市民の主体性を軸に、実験的な芸術創造を含めて事業・運営を行ってきた現場のあり方、地域との関わりを学びます。並行して、先行き不透明な今の時代、一人の人間として文化芸術を通して地域にどう関わり、生きていきたいか、働き方やキャリアについても参加者同士で学び合いたいと思います。

[対象となる職員の目安]

公立文化施設（ホール・劇場等）で企画・運営に携わる職員（指定管理者である民間事業者の職員も含む）および地域の文化・芸術に携わる地方公共団体職員で、公共ホール・劇場（開館準備のための組織を含む）において業務経験年数1年半未満（開館準備のための組織は年数不問）の方。

②自主事業コース

コーディネーター：鈴木ユキオ（「YUKIO SUZUKI projects」代表／振付家・ダンサー）

劇場は「人」が集う場です。市民・観客・アーティスト・職員・観光客・・・さまざまな人のことを想像しながら、ホールの可能性、やるべきこと、やりたいことをクリアにしていましょ。身体を動かして、いろんな人の話を聞き、同じ志をもつ仲間と話し合いながら未来を創り出していきませんか？

[対象となる職員の目安]

公立文化施設（ホール・劇場等）で企画・運営に携わる職員（指定管理者である民間事業者の職員も含む）および地域の文化・芸術に携わる地方公共団体職員で、自主企画による事業を実施している公共ホール・劇場において業務経験年数が2～3年程度の方。

■ 申込方法

当財団ウェブサイト内「ステージラボ」ページ（<https://www.jafra.or.jp/project/training/01.html> ▶）から、①参加申込書、②アンケート回答票をダウンロードし、必要事項をご記入のうえメール（宛先：kensyu@jafra.or.jp）でお申し込みください。※民間事業者の場合は③副申書が別途必要



申込締切 2025年4月25日（金）必着

※申し込まれた方には、2営業日以内に受付確認メールをお送りいたします。確認メールが届かない場合は、お電話でお問い合わせください。

【参加者の決定】

アンケート内容、応募状況などを考慮のうえ（アンケート重視）、参加コースと参加の可否の調整を行い、2025年5月中旬頃に、申込者あて文書によりご連絡致します。

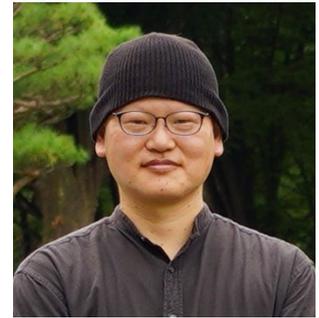
【お問合せ】（一財）地域創造 芸術環境部 研修担当 TEL：03-5573-4183 E-mail：kensyu@jafra.or.jp

■コーディネーターからのメッセージ・プロフィール

①ホール入門コース

コーディネーター：野村政之（信州アーツカウンシル ゼネラルコーディネーター）

1978年長野県生まれ。信州アーツカウンシル（(一財)長野県文化振興事業団）ゼネラルコーディネーター。舞台芸術の企画・制作やドラマトゥルクとして創作現場に、コーディネーター等として公的芸術文化支援に並行して携わる。長野県内の公共ホール、東京の小劇場での活動、アーツカウンシル東京アーツアカデミー調査員、沖縄アーツカウンシルプログラムオフィサー、長野県県民文化部文化政策課文化振興コーディネーターなどを経て、2022年4月より現職。（一社）全国小劇場ネットワーク代表理事、NPO 法人舞台芸術制作者オープンネットワーク（ON-PAM）理事。



高齢化や人口減少により、地域社会の様々な局面で担い手不足が言われる昨今、文化芸術活動が多様な人々をつなぎ、支え合う関係を育む力は、これから一層重要なものになると思います。地域の文化拠点で働く一人の人間として、事業のコーディネートにおいて、日々の関わりのなかで、日常の暮らしを通して、地域の中で文化芸術を担っている方たちと、どんなふうに文化環境「文化的commons」を共に創っていきましょうか。

私は、東京での演劇活動を経て、当初、公共ホールのプロデューサーを目指していました。アーティストと関わりながらユーザーとして各地のホールで創造活動を行うのに並行して、公的支援に携わり地域の文化芸術振興にどう取り組むべきかを追いかけていたら、文化芸術の中間支援機関「アーツカウンシル」の仕事自分の軸にすることになっていました。

皆さんの今後の人生にも、いろいろな変化があると思いますが、皆さん自身の暮らしと文化芸術、そして地域の関係には、様々な可能性があります。互いの思いや考えから学び合えたらと思います。

②自主事業コース

コーディネーター：鈴木ユキオ（「YUKIO SUZUKI projects」代表／振付家・ダンサー）

世界50都市を超える地域で活動を展開し、しなやかで繊細に、かつ空間からはみだすような強靱な身体・ダンスは、多くの観客を魅了している。MV出演やモデル活動、ミュージシャンとの共同制作などのほか、子供ダンス作品の振付や、障害のある方や養護学校、医療少年院でのワークショップなど、アートに触れる機会を提供する事業に積極的に参加。身体と感覚を自由に開放し、個性や感性を刺激する表現を生み出す活動を幅広く展開している。'08年トヨタコレオグラフィアワード「次代を担う振付家賞（グランプリ）」など受賞多数。



『ここにきたら会える』というふらっと立ち寄れる場所であること。そんなホールが素敵だと思います。「これがあるから観に行く」のではなく「ここだから観に行く」という場所。そんなホールだからこそ、アーティストが自信を持って挑戦をできるし、観客にとっても思いがけない出会いがあるのだと思います。地元の方が自然に集まり、何か面白そうだから見てみようと思える催し物をあなたのホールで実現し、知らないものを体験できる場所にしたい。

そこで、まずは皆さんと身体をほぐしながら、表現や芸術・アートに関する色々な「思考」に触れていきます。自分の身体を動かし、感じ、体験することでダンスの可能性にも気付いてもらえると思います。これから特色のある企画をしていくためのヒントを一緒に探しましょう。

多様性の時代、ホールのあり方も、日々変化していつているのではないのでしょうか？自分たちのホールで何ができるのか、あなたは何がしたいのか、そしてそれを誰と共に分かち合いたいのか、さらには、何十年後の未来にどんな劇場でありたいのか、一緒に見つけていきましょう。